

令和4年度 学校評価結果報告書

内子町立五十崎小学校

- (1) 実施期日 アンケート：令和4年12月 学校評価委員会：2月7日(火)19:00実施
- (2) 対 象 保護者(51名)、児童(86名)、教職員(13名)
- (3) 学校教育目標 ふるさとを愛し、たくましく生きる五十崎の子を育てる
- (4) 集計と考察

評価結果(平均ポイント)とは、アンケート調査の回答を、「A:そう思う」…4点、「B:だいたいそう思う」…3点、「C:あまり思わない」…2点、「D:思わない」…1点として集計したもので、満点は4点になる。なお、「E:分からない」については除外している。学校関係者評価は、各自自己評価を総評してA・B・Cを3点・2点・1点として数値評価し、平均値を「A…2.6以上、C…1.4以下、B…それ以外」として表示している。
(昨年度【R3】と今年度前後期【R4】の平均ポイントを記載している)

				自己評価			
項目	番号	評価者	質 問 項 目	平均ポイント		R04 考察及び改善方策	
				R4後期	R3後期		
1 確かな学力（学習指導）	①	児童	学校の授業は、よく分かりますか。	3.6	3.5	○ 昨年度に続き、授業でのICT機器の活用は進んでいる。これまでは、授業内容の視覚化や情報提供としてのICT機器活用が主流であったが、今後は、児童相互の主体的・対話的な学習の場面での活用も充実させていきたい。新型コロナウイルス予防対策として実施したWEB会議システムは、他校との交流や地域の方との遠隔授業など、利用の可能性をさらに広げていきたいと思う。	A (2.8) ・新しい学習方法に興味あり。一時的な取組で終わらないように。 ・ICT機器の活用が進むにつれて、記述や書写能力に影響がないのか気になる。 ・機器の操作には子供たちは興味を持って取り組んでいるのでしょうか。 ・児童と保護者の差は親の学習成果の希望の表れ。引き続き指導を。電子黒板の成果は素晴らしい。 ・月末テストは、良い目標になっていると思う。
		保護者	お子さんは、基礎的・基本的な学力が身に付いている。	3.1	3.0		
		教職員	学校は、個々の実態に合わせた、児童の学力の定着や向上に努めている。(月末テストへの取組、活用力が求められる学習課題の設定等)	3.4	3.3		
	②	児童	あなたは、宿題や自主勉強などに、進んで取り組んでいますか。	3.4	3.2	○ 個別の学習内容や、学年の発達段階に応じた宿題や自主学習の設定を心掛けている。しかし、今年度も家庭学習への取組は個人差が大きく、学年が進むにつれて差異が大きくなる傾向が続いている。家庭学習を毎日継続できるよう習慣化したり、ゲーム等への依存やメディア時間を自制したりできるよう、家庭にも啓発していきたい。また、自主学習ノートを有効活用するための方策についても指導を継続させていきたい。	B (2.4) ・保護者の方々の思いと、子供たちの思いに差があるようです。しかし、少しずつ皆ががんばっているのが分かる。 ・前年度と比較して、向上しているため継続した指導を。個人差に対しては、今後の課題になる。 ・家庭学習を自主的に行うのは身に付きにくいので、先生方の工夫と保護者の見届けを大切に。 ・家庭学習や宿題について、保護者の相談にのることもできるのではないか。宿題の提示について、個別の支援のあり方を話し合うことも大切。 ・学校の指導支援を心強く思う。
		保護者	お子さんは、進んで家庭学習をしている。	2.7	2.6		
		教職員	五十崎小の児童が、学年に応じた家庭学習の習慣が身に付くよう、支援や指導をしている。(適切な課題設定、保護者の家庭学習の見届け、未提出者の支援等)	3.5	2.9		
	③	児童	あなたは、進んで読書をしていますか。	3.0	3.0	○ 前年度と比較すると、保護者の評価に改善がうかがえる。しかし、他の項目と比較すると、依然として評価が低い傾向にあるため、読書活動への啓発を継続させていきたい。児童は、読書活動を好む傾向はあるが、読み物のジャンルは偏りがある。また、活字を通して情報を得る習慣は、根気や集中力を養う利点もあると考える。朝読書の時間設定、読み聞かせ活動の実施、図書情報館の方のブックトークだけでなく、家庭での読み聞かせや、親子読書等も推奨していきたい。	B (2.0) ・読書は苦手意識が強いようだが、楽しい物だと分かってもらえるよう継続した指導をしてほしい。 ・親が読書に親しむと、子供も興味を持つのではないかとと思う。 ・とにかく読む習慣を身に付けたいので、漫画本・新聞等ジャンルを問わず、読むことに慣れてほしい。 ・啓発継続を基本にしてほしい。保護者の読書習慣も向上させてほしい。 ・読書の好き嫌いがはっきりしている。図書には人生を変えるほどの出会いの可能性もあることを知らせたい。 ・図書情報館はとても良い施設なので、学校からも行く機会があると良い。
		保護者	お子さんは、進んで読書をしている。	2.5	2.3		
		教職員	五十崎小の児童が、進んで読書活動ができるよう、図書の提示や場の設定を行っている。(読書に触れる学習の場の設定、朝読書、国語科の関連図書読み広げ等)	3.4	3.1		

2 豊かな心（生徒指導）	①	児 童	あなたは、毎日、楽しく学校に通っていますか。	3.6	3.5	○ 穏やかに学校生活を送っている様子が児童全体にうかがえ、異学年交流の際にも、互いにいたわり合ったり尊敬し合ったりする傾向がある。各家庭にも、五十崎小児童全体を見守っていただく様子がうかがえる。今後も、様々な学校行事を通して協働することによって、仲間意識や個々の人格を形成していきたい。また、コミュニティスクールの利点を生かした、地域参加型の学校教育を本格化させ、地域全体で学校教育に関心を持っていただけるよう教育内容のさらなる改善を心掛けていきたい。	A (2.9) ・細かい配慮を継続してほしい。 ・コロナ禍で交流の機会が減っていると思うが、その中でも楽しく穏やかに学校生活が送れていることは大変うれしく思う。 ・今後も細やかなご配慮を継続してほしい。 ・校区・校風ともにいい環境の学校だと思う。大人たちがストレスを抱えず、逆に子供たちに学ぶこともある。
		保護者	お子さんは、楽しく学校生活を送っている。	3.5	3.5		
		教職員	五十崎小の児童が、明るく元気に学校生活を送ることができるよう、手立てを講じている。 (日課や行事の無理のない計画、教育相談の実施、個々の特性を踏まえた学級経営等)	3.5	3.3		
	②	児 童	あなたは、みんなはと仲よくできていると思いますか。	3.6	3.4	○ 上半期は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続き、昨年度と同様に異学年交流を行う機会が少なかった。そのような中でも、下学年をいたわりながら登下校する様子や、縦割り班活動でみんなで仲良く遊ぶ工夫をする態度がうかがえた。また、児童全体に穏やかに物事を解決しようとする様子が見え、児童間のトラブルも、昨年度と比較すると減少傾向にある。教育相談やアンケートを実施して、今後も細やかな対応を継続していきたい。	A (2.8) ・学校生活の中で、児童間のトラブルが減少傾向なのは良いこと。子供たちからの話を聞くと、先生との信頼関係も深いことがうかがえる。今後も細やかな対応をお願いします。 ・コロナの影響は大きい。少しずつそれを踏まえた活動・行動ができるようになってきていると思う。思いやりの気持ちを持つことは大切。いろいろな経験を通して身に付けていってほしい。 ・地域住民とともに、お互いが顔の見える環境です。相手の異変に気付いたときは、声を掛ける勇気と努力を養っていただきたい。
		保護者	お子さんは、友だちを大切にし、仲よくしている。	3.6	3.5		
		教職員	五十崎小の児童が、善悪の判断ができ、思いやりのある行動がとれるよう手立てを講じている。 (異学年交流、学級の仲間づくり、人権・同和教育の実践、生命を尊重する態度等)	3.5	3.2		
	③	児 童	あなたは、あいさつや返事が、進んでできていますか。	3.4	3.3	○ 朝の登校時には、個人の名前を呼んで挨拶を交わすことを推奨しており、相手を意識した挨拶の習慣が身に付いてきた。また、上学年が、いつでも誰に対しても気持ちのよい挨拶を交わす手本を示しており、下学年にも実践的な態度が継承されつつある。毎月のPTA街頭指導でも、児童の挨拶の態度や声が向上したことが報告されている。更に、児童の意識向上に努めたい。	A (2.8) ・大人になっても大事なこと。今後も続けて指導をお願いしたい。 ・高学年が手本となり、児童全体で習慣化したことはとても良い傾向。今後も継続して行えるよう指導をお願いします。 ・挨拶を通して、周りの人との信頼関係が深まればいいです。
		保護者	お子さんは、あいさつや返事が進んでできています。	3.1	2.9		
		教職員	五十崎小の児童が、基本的な生活習慣が身に付くよう、支援や声掛けをしている。 (気持ちの良い挨拶・返事、履物の整理、時間順守、早寝早起き朝ご飯等)	3.5	3.2		
	④	児 童	あなたは、進んでお手伝いや仕事をしていますか。	3.4	3.2	○ 各委員会や学級内の係活動等は、役割分担や毎日の習慣化された活動として、ほとんどの児童が積極的に取り組むことができる。しかし、家庭での手伝いについては、保護者と児童では認識の違いを感じる。学校では組織の一員としての役割だが、家庭では必ずしもそうとは言えない場面も多い。家族の一員としての役割について考え、「手伝い」について再度啓発していく必要性を感じた。	B (1.9) ・高学年になるにつれて、子供たちは忙しい様子。家庭でも子供主体になってしまっているのではないかと。 ・家庭での手伝いは、保護者の評価が低い、学校での役割は毎日習慣化して活動できており良い。自主的に活動できる児童が増えると良い。 ・家庭内での手伝いも、現在は大きく違っている。労働を期待されたり、当てにされたりすることも少ない。決まったことを決まったようにするだけでは、改善は難しいと思う。 ・親子といえども意思の疎通のためは会話が必要。急に頼むよりは、ルールを決めた役割が大切。保護者は、遠慮せず努力を怠らないこと。
		保護者	お子さんは、進んでお手伝いや仕事をしている。	2.7	2.6		
		教職員	五十崎小の児童が、委員会活動や給食当番、係活動等に積極的に取り組めるよう、工夫や改善をしている。 (自治的活動の支援、より良い仲間づくりを意識した企画・運営等)	3.3	3.1		

3	健康・安全 教育と管理	①	児 童	あなたは、進んで、遊んだり運動したりしていますか。	3.5	3.3	○ 新型コロナウイルス感染症予防のため、友達と誘い合って遊ぶ機会が激減している。また、インターネット上のゲームサイトで遊ぶ形態も定着しており、屋外での集団遊びが衰退しているのが現状である。学校生活の中で、適切に休憩時間を確保し、集団での外遊びの楽しさが体感できるよう工夫していきたい。授業内でも、ITスタジアム(WEB登録競技)等に積極的に取り組むようにしたい。	B (2.2) ・今の社会情勢では、外で走り回って遊ぶのは、まだ難しい様子です。 ・コロナ禍の問題もあるが、ネットやゲームが普及したこともあり、外で遊ぶ機会が減っていることは残念だ。休み時間を利用して、屋外で遊ぶことが増えると良い。自分の時代では、いつもサッカーを先生と一緒にしていたことを思い出す。 ・子供の数も少ないので、集団で遊ぶ姿は見かけない。その分、学校で経験させてもらっていると思う。 ・昔に比べてインドア傾向は否めない。イン・アウトの転換を行える生活環境作りを家庭で取り組んでほしい。 ・高学年ほどゲームが多くなっていると思う。家庭でも運動の楽しさを伝えられたらと思う。
			保護者	お子さんは、進んで遊んだり運動をしたりしている。	3.2	3.1		
			教職員	五十崎小の児童が、進んで遊んだり運動をしたりして、体力増進に努められるよう支援や声掛けをしている。(休憩時間の確保、体力作りの習慣化を目指した支援等)	3.2	3.3		
		②	児 童	あなたは、安全に気を付けて、行動できていますか。	3.7	3.4	○ 昨年度に引き続き、実際の災害時を想定した引き渡し訓練を実施した。災害時の保護者来校を想定し、普段の参観日等の車両通行も、引き渡し時と同様に行うようにした。また、PTAによる夏休みのプール開放も、水難事故を想定した救急救命法講習を全家庭に受講していただき、事故防止のマニュアルに沿って実施運営することができた。今後、予告なしの避難訓練等も実施し、自分の命を自分で守る児童の育成に力を入れていきたい。	A (2.6) ・同じことの繰り返しで良いので、子供・保護者の両方に声掛けを。 ・引き続き、児童の安全のため指導をお願いしたい。 ・安全教育は、生命に関わる大切なことなので、いろいろな方法で今後も指導してほしい。 ・災害や安全に対し、常に注意を払っていることがうかがえる。引き続き指導を。
			保護者	教職員は、子どもの安全指導や安全対策に努めている。	3.5	3.3		
			教職員	学校は、学習の場にふさわしい環境の整備に努め、安全・安心な学校生活の実現に向けて努力している。(感染症対策、学習の過程を重視した掲示物、協調・協働した学習の場の設定等)	3.5	3.5		
		③	児 童	あなたは、「早寝・早起き・朝ご飯」はできていますか。	3.4	3.5	○ 基本的な生活習慣の定着については、家庭によってばらつきがあるのが現状である。適切な睡眠時間の確保やバランスのとれた食事など、児童だけでは対応できない場合があるので、保護者への協力を啓発していきたい。学校生活においても、気温や体調に合わせた衣服の調節や、給食指導等を通して、生活習慣の定着を図っていきたい。	B (2.3) ・生活習慣の定着。今後も継続した指導を。 ・夜遅くまで起きている児童を、よく耳にする。各家庭の問題でもあるため、改善はなかなか難しいと思うが、協力して改善に取り組んでいきたい。 ・保護者への啓発をお願いしたい。 ・児童の生活習慣は、保護者の指導や暮らしが基本となる。気を付けたい。 ・生活チェック表があつて、意識して取り組んでいると思う。
			保護者	お子さんは、「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣が身に付いている。	3.1			
			教職員	五十崎小の児童は、衣食住に関する基本的な生活習慣が身に付いている。(早寝・早起き・朝ご飯の習慣、時間を守った生活、家庭学習の習慣等)	3.3			

4	家庭・地域との連携	①	児 童	あなたは、困ったときに、先生に相談できますか。	3.3	3.1	○ 児童の日常生活の様子や「心をつなぐアンケート」の実施を通して児童の悩みを把握し、早期対応に心掛けている。児童から相談を受けた際は、保護者と内容を共有し、家庭と学校の共通理解の下、具体的な対応が実践できるようにしていきたい。学習や生活、生徒指導上の諸問題も、複数の教職員が組織的に対応できるようにしており、解決に向けた校内委員会を実施している。児童の連続欠席についても、保護者への直接の連絡や家庭訪問等を行い、家庭との信頼関係を築くとともに、早期発見と対応を今後も継続していきたい。いじめにつながるような粗暴な発言や行動にも、共通理解を持って厳格に対応している。	A (2.6) ・子供や保護者から信頼されている様子がうかがえる。 ・引き続きお願いします。保護者・児童の結果が向上しているのは、先生が些細なことにも気付き、対応していただいている成果だと思う。 ・引き続きよろしくお願いします。保護者の信頼が厚いのありがたいです。 ・評価が上がっていて良い。学校と児童、保護者との信頼関係の表れである。適切な対応がありがたい。 ・概ね良好で安心です。引き続きご指導をお願いします。
			保護者	教職員は、子どもや家庭からの相談に適切に対応している。	3.3	3.3		
			教職員	学校は、いじめ・不登校・問題行動等の防止に、全教職員の共通理解の下、組織的に取り組んでいる。(いじめを許さない徹底した態度の育成、連続欠席を防ぐ対策、善悪の判断等)	3.6	3.4		
		②	児 童	あなたは、登下校の時など、家族や地域の人に、見守られていると感じますか。	3.5	3.5	○ 昨年に引き続き、「コミスクいかさき」による「五十崎全域おはよう運動」や「アルミ缶回収」を実施している。参加された保護者や地域の方から寄せられた貴重なご意見は、児童の安全指導上の改善となっている。家庭や地域との交流を通して、情報交換を行い、より連携・協力ができるよう努めたい。昨年度末から、校報等を校区地域回覧しており、地域の皆さんに五十崎小の教育活動に、ご理解とご協力をいただいている。ただ、新型コロナウイルス感染予防対策の中、児童・保護者と地域の方、教職員が、共に参加する交流活動等がほとんど実施できていない。地域の良さや人との触れ合いを感じることができる活動も、今後工夫をしていきたいと思う。	A (2.3) ・家庭・地域・学校、皆で子供を育てていければ良いのではないかと。 ・地域全体で行っている取組であり、学校のみでなく地域の方から見守られ、児童が成長していく環境が整っていると思う。 ・地域も高齢化が進み子供との交流もあまりないが、登下校の様子を見て元気で楽しい毎日を過ごしてほしいと願っている。見かけたら、声掛けをしたいと思う。 ・コロナ禍でますます学校から足が遠のき、様子が分からない。校報の回覧は、学校を知る上でとてもよいと思う。 ・地域のご協力にとっても感謝しています。
			保護者	教職員は、保護者や地域との連携・協力を努めている。	3.2	3.3		
			教職員	学校は、保護者や地域と連携・協力して教育活動にあたり、学校の情報をわかりやすく保護者や地域に伝えようとしている。(コミスクの取組、学年通信・校報、学校行事、児童支援のための連絡等)	3.5	3.3		